

農家所得向上と遊休農地解消 ～セリの新規栽培～

中山間地に位置する大崎市岩出山葛岡地区の農事組合法人葛岡（鈴木実組合長）は、セリの栽培開始から4年目を迎えた。

同法人は、地区の農家を構成員に2017年に設立。現在、組合員は21人を数え、水稲約33ha、セリ40aなどを栽培している。特にセリは、農家所得向上と遊休農地解消を目指し、2018年から取り組んできた。

セリを選んだ理由は、水稲の作業時期に重ならないことと、40aの遊休農地に隣接した場所の近くから豊富な天然の湧水が出ており、それを活用できることがきっかけとなったもの。

栽培方法もユニークで、露地栽培のほか、水田にビニールハウスを設置するなど工夫を図り、ハウス内で管理することで、霜による葉の変色や雪による倒伏を防ぐことができ、出荷は1月上旬まで続けられる。



「セリを岩出山の新しいブランド商品にしていきたい」と意気込みを語る。

鈴木実組合長（72）は、「遊休農地解消と農家所得向上を目指して始めたセリ栽培は今でも試行錯誤することがある。それでも、作業に加わる若い年齢層も増え、地域の農業を地域で守っていこうという気持ちが出てきた。組合員の老若男女が力を合わせ、さらなる高品質・増産化を図り、セリを岩出山の新しいブランド商品にしていきたい」と意気込みを語る。

【記事提供：大崎市農業委員会】